

平成25年6月28日
秋草学園高等学校 図書館

No. 1

松田先生のおすすめは…

913.6-シ 『きみの友だち』 重松 清 || 著 新潮社

最近では『とんび』がドラマ化され、その著者である重松清さんの本です。内容は10部構成となっており、主人公である恵美ちゃんを中心に1部ごと恵美ちゃんに関わりのある「友だち」が主人公となるお話です。明るい子、内気な子、負けず嫌いな子、色々な性格の子どもが主人公となり、どの話にも共感できるところがあるはず。今の時代、友達関係が複雑といわれていますが、これを読んで「友だちって何だろう?」と考えてみてください。そうすれば自分の「友だち」が見つかると思います。

伊藤先生のおすすめは…

913.6-ハ 『楽園カンヴァス』 原田 マハ || 著 新潮社

アンリ・ルソーが書いた「夢を見た」の絵は本物か、偽物か…。作品にまつわる謎の本を手掛かりに、その真贋判定を迫られた2人の研究者。期限は7日間。正しく判定し、作品を手にするのはどちらか?

実在する画家や作品が登場する“アート・ミステリー”です。美術館に足を運びたくなる1冊です♪

稲本先生のおすすめは…

①913.6-ハ 『ころころろ』 畠中 恵 || 著 新潮社

「しゃばけ」シリーズ第8…?弾ぐらいたったかな?現代にも通じるユーモアと、どこか物悲しいストーリーはどの年代の人にも楽しめる内容だと思います。

②914.9-6-イ 『いつも一緒に』 新潮文庫編集部 || 編 新潮社

20年ぐらい前、妹がひろってきた真っ黒い子犬を家族全員で「飼おう!!」と決めた日。その時のことが、はっきりとよみがえって、また涙してしまいました。

今井勸先生のおすすめは…

①913.6-サ 『夜の光』 坂木 司 || 著 新潮社

4人の普通の高校生が、日常的な学校生活の中で伸び伸びと成長していきます。読み終わる寸前の、後書きの言葉が、心を打ちます。

②913.6-ツ 『名前探しの放課後』 辻村 深月 || 著 講談社

面白いですよ。一気に読めます。あまり書くとネタバレになるので…。とにかく読んでください。

大畠先生のおすすめは…

913.6-シ 『再会』 重松 清 || 著 新潮社

6つの短篇小説です。文章はさらっと読めますが、内容は濃い!切なくも、ほっこりする話ばかりです。



もうすぐ7月、夏本番です。2013年、今年の夏も図書館では先生方に夏の推薦本をたくさん紹介していただきました。普段はなかなか手に取らないジャンルの本もこうして先生の紹介文を読んでいると、「おもしろそう!」と興味が湧いてきます。ぜひ、色々な先生の推薦本に挑戦してください。

紹介していただいた本は図書館で所蔵していますので(現在、購入中の本もあります)、ぜひたくさん本を借りて来てください。そして、読み終わった際には、紹介して下さった先生とその本について、楽しい語らいのひとつを過ごしてほしいです。

図書館では、現在、夏の長期貸出を始めています!!冊数は5冊までで、返却日は9月4日(水)です。この長期貸出を有効に活用して、普段はあまり本を読まない人にも本を手にとってみてほしいなと思います。また、読書家のみなさんはいつも以上にたくさん本と出会ってください。

丸山校長先生のおすすめは…

①361-シ 『日本人が世界に誇れる33のこと』 ルース・ジャーマン・白石 || 著 あさ出版

近年、日本の礼儀作法が世界で注目されています。日本人にとってあまりにも当たり前な部分で、日本人自身が海外に長期的に居住することでもなければ気付かないものがあるようです。この書は、外国人から見た日本や日本人の姿が理解できます。「日本人の気質」「日本人の習慣」「日本のビジネス」などの視点から、以前とかわらず、日本にはとても大事なオンリーワンが健在だということに気付かされる一冊です。日本人として生まれたこと、そして日本の伝統文化、芸術、学問など世界に誇れることを再認識することができます。

②375-ジ 『16歳の教科書』 7人の特別講義プロジェクト&モーニング編集部 || 著 講談社

「なぜ学び、なにを学ぶか」をテーマとし、高校時代という青春のページを、どうして勉強なんかにか費やさなければいけないのか。国語、数学、英語、理科、社会、心理学などの教科を通して、7人の特別講師が明解に答えています。ぜひ、受験生の皆さんにも読んでもらいたい一冊です。

小久保教頭先生のおすすめは…

188-マ 『禅 シンプル生活のすすめ』 枘野 俊明 || 著 三笠書房

情報過多で殺伐とした現在、どう生きるべきか迷い、悩み、自分自身のあり方を見失ってしまいそうになる時があります。そんな時、この本を手にして欲しいと思います。

他人の価値観に振り回されないように、余計な悩みを抱えないように、無駄なものをそぎ落とし、限りなくシンプルに生きる。そんな生き方を教えてくれる本です。

ちょっと「習慣」を変えるだけ、ちょっと「見方」を変えるだけで、いつもの風景が変わってくるかもしれませんね。

栗山先生のおすすめは…

913.6-ミ 『舟を編む』 三浦 しをん || 著 光文社

この本は女性ファッション誌『CLASSY』（ちょっと年上女性の雑誌ですが…）に連載されていた小説が書籍化されたものです。

「辞書は言葉の海を渡る舟、編集者はその海を渡る舟を編んでいく」という意味から、この書名が付けられたそうです。

その内容は、辞書編集部編集者たちが、長い年月をかけて辞書『大渡海』をつくり上げていくドラマです。友情あり、恋愛ありの内容でおすすめです！

菅原先生のおすすめは…

367-ウ 『下流志向』 内田 樹 || 著 講談社

今の子どもをこのように見ている大人がいる。それを支持する大人たちもいる。少なからず。子どもの立場で読んでも考えさせられる一冊。賛成するも反対するも自由。まずは読んでみよう！内容は高度、表現は平易。つまり読み易いけど、ためになる。評論読解の学習教材としても読む価値あり。やっぱりまずは読んでみよう！！

そんなに分厚くない。価格はワンコイン＋¥50。読むのにそんなに苦労しない。でも考えさせられる。とにかくまずは読んでみよう！！

関先生のおすすめは…

289-ア 『山本覚馬』 安藤 優一郎 || 著 PHP研究所

著者の安藤優一郎さんは、秋草学園高校卒業生の親戚にあたります。これまで「歴史を動かした徳川十五代の妻たち」「幕臣たちの明治維新」など、多数の著作があります。NHK文化センター講師など著作意外でも広く活躍しています。この本は、今話題の「新島八重」のお兄さんの物語です。八重が会津から京都に行ったのは兄の覚馬が、京都にいたからであり、明治に入った京都の発展は覚馬の手腕によることが大きく、覚馬と木戸孝允や西郷などの関係も興味深く知ることが出来ます。目も 体も不自由な中での覚馬の真剣さに学ぶところが大きい本です。629円（税別）という価格以上の価値のある本ですので、ぜひ読んでください。

利根川先生のおすすめは…

①913.6-タ 『カレーライフ』 竹内 真 || 著

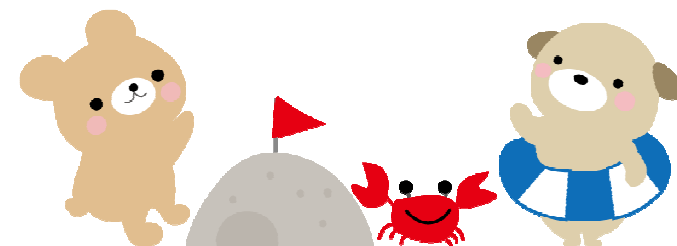
★軽く読む本

主人公がいとこと再会しながら、子どもの時の約束である。「いとことおじいちゃんの洋食屋を継ぐ」を実現するために、バーモント州→インド→沖縄とめぐり歩く話。カレーが食べたくなる本です。表紙も黄色（笑

②159-ウ 『疲れすぎて眠れぬ夜のために』 内田 樹 || 著 角川書店

★考えながら読む本

疲れていないときでもいいと思います。



遠峯先生のおすすめは…

①913.6-ア 『星やどりの声』 朝井リョウ || 著 角川書店

家族をテーマにした、心が温くなる本です。

父親が残した「星やどり」という喫茶店。それを引き継ぐ母親と、6人の子供たち。子供たちの日常生活が、1人1章ずつ描かれていて、短編小説集のような読みやすさです。

一見、溝がありそうな6人のきょうだい達のお互いを思いやる気持ち、父親がなぜ喫茶店の名前を換えたのか、困難が起きたときの6人の関わり方…。読んでいて一番良かったのは、双子の女の子の話でした。

家族っていいなあ。こんなきょうだいっていいなあ。

こんな気持ちになれる小説でした。軽く読めますので、ぜひ読んでください。

②B913.6-サ 『解夏』 さだ まさし || 著 幻冬舎

4つの小説が収録されています。

『解夏』は映画化されているようですが、映画を観る前にぜひ読んでもらいたいものです。

視力を徐々に失っていく病気にかかった男性の物語。彼の周りを取り巻く人々が、とても暖かく、優しいです。そして読んでいるだけで、日本の田舎の夏の景色がくっきりと浮かんで来て、ただ読んでいるだけなのに眩しさすら感じます。

病気に対する恐怖もですが、支える人々の気持ちや主人公の葛藤、最後は病気を受け入れる主人公に感動し、涙無しでは読めない作品です。

作者の、さだまさしさん、歌手として知っている人もいるのでは？こんなすてきな小説を書いているなんて、私もよく知りませんでした。読んでよかったな～と思える話です。

他の3話も感動作品ですよ。

③376-サ 『現役東大生だけが知っている！集中力を高める34のルール』

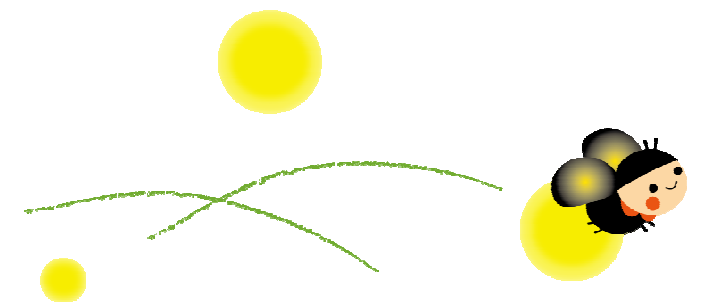
齋藤 孝 || 監修 アспект

本書の小見出しから。

- ・「面倒くさい」は禁句にせよ
- ・「書く」ことを日常化しよう
- ・「もうひとふんばり」を心掛けよ
- ・「その日のうちに復習する」のが効果的
- ・「頭に入れた情報は必ずアウトドロップしよう」
- ・「遅寝」型では集中力を維持できない
- ・朝食は絶対に抜くな

東大生だから、とんでもない勉強方法で素晴らしい集中力で…という話ではありませんでした。みんな、集中できず悩んだり、なかなか成績が上がらずに苦しんだりしていました。難しいことは1つも書いてありません。むしろ、共感できるところがたくさんあると思います。

これを読むと、なんだか東大生が身近な存在になったような気がして不思議です。



中村先生のおすすめは…

①481-コ 『足跡図鑑』 子安 和弘 著 日経サイエンス社

動物系を“進路”に考えている皆さん。アニマル・トラッキングに関する本を紹介しましょう。
動物たちのかわいい足跡から、その動物の種類や行動を推測する「アニマル・トラッキング」。そうしたもののから動物の運動様式「ロコモーション」の知識を学んでください。
図鑑ですから、生川典子さんのイラストもとてもきれいです。“美術”を学ぼうとしている人にもいい参考書になるはず。

②460-サ 『自然図鑑』 さとうち 藍 著 福音館書店

最近、秋草学園高校のHPでも、校長先生の体育大会の話の中でも紹介された「キツツキ」。学校のケヤキに巣作りをしているのは、「アカゲラ」か「コゲラ」か、どちらの「キツツキ」か、わかりませんが、子どもは元気に育っているようです。
動物系の“進路”を希望している皆さんが多い昨今の秋草学園高校。この機会に、このような図鑑でも読んでみてはどうでしょう。読めば読むほど、見れば見るほど、自然あふれる学校がよい意味での教材にもなります。
そして、将来幼保系に進まれようとしている皆さん、“園児”たちは、平気で保育園・幼稚園や先生の所へ「昆虫・は虫類」など、ネコやイヌなどとは違う動物を持ってきたりすることは多いでしょう。そのとき、「キヤー」と驚く先生と何か教えてくれる先生と、いったいどちらになるのかな？皆さんは・・・

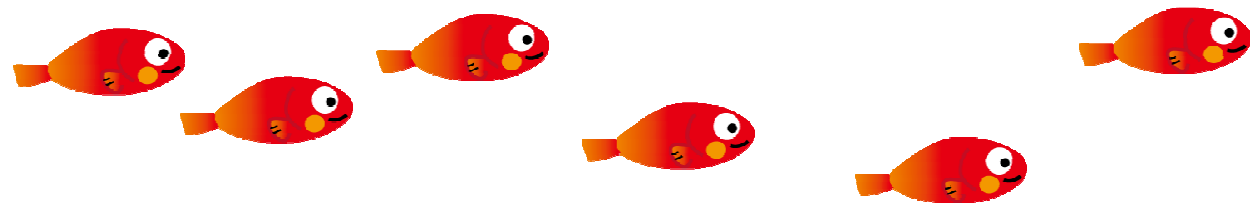
藤枝先生のおすすめは…

①304-コ 『社会を変えるには』 小熊 英二 著 講談社

今の日本社会は非常に不安定です。ニュースを耳にしていれば、皆さんも漠然とは感じていることでしょう。
具体的には、どのように不安定なのでしょう。何が問題なのでしょう。
日本の社会構造の変遷や思想の流れなどが書かれてある、とても為になる本です。
まずは歴史と現状を知って、将来どのような社会であってほしいかを考えてみてください。きっとそれは自分の将来の夢や目標について考えるヒントにもなるでしょう。

②527-イ 『古くて豊かなイギリスの家 便利で貧しい日本の家』 井形 慶子 著 新潮社

古くて趣のあるイギリスの家は、時間をかけえ伝統を重んじていくことを大切にしている英国人らしさを思わせませす。
一方、簡単で便利さを追求した日本の家は、忙しくて家にいないスピードに追われた生活をおくる日本人らしさを思わせませす。
まるでおとぎ話にでてくるようなイギリスの家のことを、日本の様子と比較して楽しく書いてあります。読んでみてください！



福島先生のおすすめは…

E-タ 『ダンプえんちょう やっつけた』 古田 足日 著 たばた せいいち 絵 童心社

わらしこ保育園のダンプみたいなえんちょうと年長のクジラ組の園児（ガラパンやさくらたち）との壮大な海賊ごっこが展開され、ダンプえんちょうは容赦なく子供たちをやっつけていきます。しかし、最後まであきらめずに子供たちは、ダンプえんちょうに戦いをのぞんでいきます。一番ちいさなさくらも大活躍…その結果は見て読んでのお楽しみ…。
あそびを通じて子供たちの成長を見守る園長や伸び伸びと育ってゆく子供たちの様子がほのぼのと感じられる作品です。
有名な「おしいれの冒険」の第2作として出版されたものですが、「おしいれの冒険」にも劣らない快作です。夏休みに田舎の野原で寝ころびながら読むとさらに心地よい気持ちになれると思います。



本多先生のおすすめは…

913.6-二 『火の島』 新田次郎 著 新潮社

台風観測の最前線に位置する絶海の孤島・鳥島は昭和40年11月、火山爆発の危機に立たされていた。死の恐怖と観測の使命の間に苛立つ所員の心理と行動はその場に私がいるような錯覚をおこします。
古い本ですが、長い夏休みにこのような科学小説を読んでみてください。

丸山壽先生のおすすめは…

294-タ 『謎の独立国家ソマリランド』 高野秀行 著 本の雑誌社

独立国家ソマリランドって、聞いたことありますか？多分無いよね。実は、「アフリカの角」と呼ばれる東アフリカのソマリア連邦共和国（通称ソマリア）の中にある国？です。
ソマリアは、内戦が続き無政府状態で、外国人が立ち入ることができないと思われていた国です。そんな国の旧英領ソマリランドの地域だけ「勝手に」独立して、「ソマリランド」と名乗り、自分たちだけで話し合って内戦を解決して、十数年も平和を保っている所。それがソマリランド。そんなソマリランドを旅した探検家高野秀行さんの旅行記です。
どんな風に内戦を解決したのか？特に産業もないソマリランドの経済状態はどうか？不思議なことだらけのソマリランド。ぜひ、一読を。
高野秀行さんの著書紹介
『怪魚ウモッカ格闘記』・『幻獣ムベンベを追え』・『アヘン王国潜入記』

湯本先生のおすすめは…

913.6-ミ 『風が強く吹いている』 三浦 しをん 著 新潮社

「本気」で取り組んだ人にしか見えない景色があります。
能力に差はあれども、努力と気の持ち方によってこんなにも人は成長できるのかと感じさせてくれる話です。「本気」で取り組む日々を送っている人にも、余力を残しながら毎日を過ごしている人にも、是非読んでもらいたい一冊です。

吉田先生のおすすめは…

①141-チ 『自分のアタマで考えよう』 ちきりん 著 ダイヤモンド社

「学校の勉強なんかやっても、どうせ社会じゃ役に立たない。」と思っている人、これをよんで大人の予習をしておいてください。

②B913.6-シ 『とんび』 重松 清 著 角川書店

不器用なお父さんと、息子と、町の人々のお話。「親の気持ちって、こんな感じなのかぁ。」と泣きます。

鈴木司書のおすすめは…

①『ある奴隷少女に起こった出来事』 ハリエット・アン・ジェイコブズ 著 大和書房

1640年代から1865年まで続いたアメリカの奴隷制。その廃止の先駆けとなったリンカーンの「奴隷解放宣言」は1862年9月になされました。

その前年、1861年に一足早く自由を手にした一人の女性奴隷がいました。この本の主人公ハリエットです。作中ではリンダと名乗る彼女の物語は、作り物の小説ではなく実話です。自分と愛する子どもを守るため、彼女は毒虫や蛇に囲まれた沼地に身をひそめ、身動きできない屋根裏に22歳からの7年間を潜伏し、その後、自由州ニューヨークへの逃亡を果たします。しかしどんなに逃げようと追っ手は迫ってきます。

緊迫感のせまるこの物語は、奴隷にされた本人の経験をもとに書かれているため、私たちには想像もつかない当時の奴隷たちの過酷な状況を訴えてきます。

“奴隷制は、黒人だけではなく、白人にとっても災いなのだ”

②289-ハ 『拉致と決断』 蓮池 薫 著 新潮社

大学3年の夏に帰省した新潟の海岸で拉致され、言葉もわからない北朝鮮につれていかれた蓮池薫さん。

その地で、彼に許された自由はごくわずかなものでした。心で感じたり思ったりすることはできても、それを他人に打ち明けたり、感づかれたりすることは命とりになりかねなかったからです。見知らぬ地で、祖国との絆を絶たれた絶望的状况。そうした閉ざされた環境で一生を終えるのだろうかと思いついた彼が過ごした北朝鮮での日々。そこで暮らす普通の人々の生き方も交えながら語られる、北朝鮮という独裁国家の姿。奇跡的に2002年に帰国することができた時さえ、彼と家族は手放して喜ばませんでした。子どもたちが北朝鮮に残されたからです。

幸い彼は子どもたちを取り戻せましたが、今もまだ、その存在を知られず北朝鮮に残されている拉致被害者を、私たちは忘れてはなりません。

今井司書のおすすめは…

①916-コ 『アジアン・ジャパニーズ』 小林 紀晴 著 新潮社

日本を飛び出しアジアを旅する筆者が異国で出会った日本人たち。彼らの旅から伝わってくるのは、旅の楽しさではなく、もっと深いものだ。彼らは旅をしながら自分の人生を見つめている。どう生きるかを考えている。そして、そんな旅人の姿を撮る筆者自身もまた葛藤のなかにいる。

『自分の知らなかった自分に出会うのが旅なのかな。良いところも、悪いところも』

『本当は外からの刺激ではなく、内からの刺激で変わらなくてはいけないはず』

いろんな旅人のいろんな言葉が心に残り、「私はこれからどう生きていきたいんだろう」と、自分自身の生き方を改めて考えさせられます。

②913.6-ミ 『ソロモンの偽証 第I部～第III部』 宮部 みゆき 著 新潮社

1冊が約700ページ。それが3冊。手に取ってみると、その重さにびっくり。読む前は「これ、読み切れるかな」と不安になります。でも、読み終わった後、「もっと読んでいたかった」と思っている自分がいます。それほど引き込まれ、時間が経つのも忘れて読みふけてしまうおもしろさ。ちょうど物語の舞台も夏休み、この夏休みは時間を気にせず、一気に読みしてみてください。

◎あらすじ…

同級生の少年の死をきっかけに、中学生の少女少女たちの日常はかき回され、さらなる悲劇を招いていく。

“学校にも大人にも、もう任せておけない。これは私たちの事件なんだ” そう立ち上がった少女は、学内裁判を起こすことを決意する。あまりに突拍子もないその行動に周囲の風当たりは冷たかったが、勇気をもって立ち上がった同級生たちと共に、学内裁判は動き始める。

家族や友人、そして仲間である裁判員たち、多くの人と衝突し、その度に心を痛めながらも、彼らは前に進んでいく。はたして、彼らはこの長い長い裁判の末に、どんな答えにたどり着くのだろうか。

